

平成30年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の概要

(1) 実施期日 平成30年4月19日(火)

(2) 対象学年 小学校第6学年 中学校第3学年

(3) 調査事項

①教科に関する調査

○小学校調査は、国語・算数・理科とし、中学校調査は、国語・数学・理科とする。

○出題範囲

ア 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など(主として「知識」に関する問題)を中心とした出題(A問題)

イ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などに関わる内容(主として「活用」に関する問題)を中心とした出題(B問題)

○出題形式

記述式の問題を一定割合で導入する。

②質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施する。

3 教科に関する調査の結果概要（小学校）

① 調査科目の区分による平均正答率

(公)は公立学校

<小学校>

(単位%)

調査科目	羽生市	埼玉県	全国 (公)
国語A	66.0	71.0	70.7
国語B	52.0	54.0	54.7
算数A	58.0	62.0	63.5
算数B	47.0	50.0	51.5
理科	57.0	59.0	60.3

2 学習指導要領の領域等での区分による平均正答率

<小学校国語A>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
話すこと・聞くこと	85.0	90.7	90.8
書くこと	70.0	74.4	73.8
読むこと	68.7	72.9	74.0
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	63.0	66.9	67.0

<小学校国語B>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
話すこと・聞くこと	60.7	64.1	64.6
書くこと	44.1	44.5	45.6
読むこと	48.9	48.1	50.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			

<小学校算数A>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
数と計算	54.6	61.4	62.3
量と測定	68.7	69.3	72.7
図形	51.2	56.1	56.9
数量関係	53.8	58.9	60.1

<小学校算数B>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
数と計算	54.4	57.0	58.4
量と測定	46.7	50.6	52.4
図形	53.7	58.6	59.9
数量関係	40.7	44.0	45.1

<小学校理科>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
物質	57.0	59.2	59.8
エネルギー	50.3	51.5	53.1
生命	69.4	71.5	73.6
地球	48.9	48.9	49.5

小学校調査

【国語 A (主として「知識」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す」「目的に応じて必要な情報を捉える」「文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く」「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」等に課題がみられました。

【国語 B (主として「活用」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」については、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「書くこと」「読むこと」については、全国・県平均と同程度の結果でした。
- 「目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える」「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」は全国平均を上回る結果でした。
- 「計画的に話し合うために、司会の役割について捉える」等に課題がみられました。

【算数 A (主として「知識」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と計算」「図形」「数量関係」については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「量と測定」については、県平均と同程度ですが、全国平均はやや下回る結果でした。
- 「除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している」「1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる」「直径の長さと同程度の結果でした。」等に課題がみられました。

【算数 B (主として「活用」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「量と測定」「図形」については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と計算」「数量関係」については、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が 360° になっていることを記述できる」「折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる」等に課題がみられました。

【理科】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「物質」「エネルギー」「生命」領域については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「地球」領域については、全国・県平均と同程度の結果でした。
- 「実験結果から言えることだけに言及した内容を改善し、その内容を記述できる」は全国平均を上回る結果でした。
- 「人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる」「物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる」等に課題がみられました。

4 教科に関する調査の結果概要（中学校）

① 調査科目の区分による平均正答率

(公)は公立学校

<中学校>

(単位%)

調査科目	羽生市	埼玉県	全国 (公)
国語A	72.0	75.0	76.1
国語B	56.0	61.0	61.2
数学A	59.0	65.0	66.1
数学B	41.0	47.0	46.9
理科	65.0	65.0	66.1

2 学習指導要領の領域等での区分による平均正答率

<中学校国語A>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
話すこと・聞くこと	71.5	74.2	75.2
書くこと	70.2	73.8	73.9
読むこと	73.4	75.4	76.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.6	75.5	76.5

<中学校国語B>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
話すこと・聞くこと	72.7	76.1	76.6
書くこと	27.6	30.9	31.3
読むこと	47.5	53.1	53.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	45.7	49.6	49.2

<中学校数学A>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
数と式	62.2	69.2	71.1
図形	63.6	68.7	69.1
関数	47.4	54.2	55.5
資料の活用	61.9	62.7	63.5

<中学校数学B>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
数と式	45.8	50.9	51.4
図形	40.1	46.4	46.7
関数	46.6	52.8	52.8
資料の活用	31.8	37.5	38.0

<中学校理科>

学習指導要領の領域等での区分	羽生市	埼玉県	全国 (公)
物理的領域	73.9	74.1	74.4
化学的領域	63.9	63.4	65.0
生物的領域	70.4	71.6	72.5
地学的領域	54.8	56.7	57.8

中学校

【国語 A (主として「知識」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「文脈に即して漢字を正しく書く」「目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く」「行書の基礎的な書き方を理解して書く」「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む」等に課題がみられました。

【国語 B (主として「活用」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「話すこと聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「読むこと」については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える」「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」等に特に課題がみられました。

【数学 A (主として「知識」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「資料の活用」については、県平均と同程度ですが、全国平均はやや下回る結果でした。
- 「数と式」「図形」「関数」については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数量の大小関係を不等式に表すことができる」「絶対値の意味を理解している」「与えられた比例のグラフから、 x の変域に対応する y の変域を求めることができる」等に特に課題がみられました。

【数学 B (主として「活用」に関する問題)】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「数と式」「図形」「関数」「数量関係」については、全国・県平均を下回る結果でした。
- 「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる」「事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる」等に特に課題がみられました。

【理科】

- 羽生市の平均正答率は、全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「物理」「化学」「生物」「地学」領域については、どれも全国・県平均をやや下回る結果でした。
- 「ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる」「1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる」等は全国平均を上回る結果でした。
- 「神経系の働きについての知識を身に付けている」「植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている」「反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる」等に課題がみられました。

5 質問紙調査結果の概要

※質問事項は、小学校62項目、中学校59項目から抜粋

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値

(%)

質問事項	小学校6年生		
	羽生市	埼玉県	全国
朝食を毎日食べている	92.7	95.4	94.5
自分にはよいところがある	81.6	82.1	84.0
学校のきまりを守っている	94.5	93.5	89.5
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	70.6	71.2	67.6
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	67.3	65.3	63.8
算数の勉強は好きだ	66.4	64.6	64.0
算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	91.6	90.7	90.3
理科の勉強は好きだ	90.1	84.2	83.5
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	81.9	74.8	72.9

(%)

質問事項	中学校3年生		
	羽生市	埼玉県	全国
朝食を毎日食べている	92.7	92.6	91.9
自分にはよいところがある	75.0	76.0	78.8
学校の規則を守っている	96.0	96.3	95.1
家で、自分で計画を立てて勉強をしている	64.4	56.9	52.1
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある	65.6	58.3	59.3
数学の勉強は好きだ	53.2	54.0	53.9
数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	75.9	74.0	72.9
理科の勉強は好きだ	68.1	61.6	62.9
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	67.9	58.2	55.7

【調査結果から分かる特徴】

○自己に関する質問「自分にはよいところがある」については、小・中学生ともに、全国・県平均より低くなっています。

○学習面に関する質問についても、小・中学生ともに、全国・県平均と同程度もしくは上回っている項目が多くなっています。

○「好き」と回答した小・中学生は、全国平均と同程度もしくは上回っています。また、「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」を理解している生徒は、全国平均を大きく上回っています。

【羽生市の学力向上への取組】

- 各校ごとの全国学力・学習状況調査の分析
- 分析を基にした各校ごとの重点取組問題の焦点化
- 重点取組問題の焦点化を基にした各校ごとの重点取組実施計画書の作成
- 羽生市教育委員会学力向上学校訪問の実施
- 羽生市学力アップテストの実施・分析
- 市町村教育委員会「学力向上パワーアップ事業」の積極的な活用